

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年3月13日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300724
法人名	有限会社 いきいきケアサポート
事業所名	グループホーム いきいき館
所在地	鹿児島県鹿屋市東原町6006-1 (電話) 0994-42-7112
自己評価作成日	平成22年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://kaken-shakyo.jp/kohyo">http://kaken-shakyo.jp/kohyo</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年2月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街にあり、隣にはグランドゴルフや散歩ができる公園があり、地域の方と交流が出来ている。事業所自ら、地域の一住民として町内会に加入し、積極的に行事にも参加協力を行なっている。消防訓練においても、週2回の消防訓練の実施や地域の方・東原消防団と災害を想定しての合同消防訓練を行い災害時に速やかに協力がもらえるような体制づくりを行なっている。ご家族の皆様と連携を図り「その人らしく喜びと生きがいのある暮らし・家族と地域とのふれあいを大切に心豊かな暮らし」という理念の基、常に利用者の皆様の立場にたって理解し、利用者お一人お一人の思いを大切に安心して生活していただけるよう努力していきます。その為にも介護サービスの質の向上を重視し、積極的な研修参加や、勉強会などスタッフ育成に重点をおき取り組んでいる。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは閑静な住宅街にあり、隣の公園では春は桜の花が咲き散歩やグランドゴルフなどを楽しみ地域住民との語らいや交流の場になっている。職員はホームの理念を共有し、利用者の尊厳を守り、一つの家族を形成している。管理者は介護相談窓口として住民の相談に対応したり、認知症サポーター養成講座や認知症予防講座の講師を担当し、地域に貢献している。職員は介護サービスの資質向上に取り組み、利用者の個々の機能が発揮され、健康・安全・安心を保持している。利用者は花見・夏の踊り・小学校体育大会などの地域行事等に参加し、地域との明るい交流が重ねられている。消火避難訓練で地域や家族との連携ができています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所開設時に理念を掲げ、ホーム内の目につきやすいところに掲示し、毎朝のミーティングでも利用者一人ひとりの状態の確認を行い、理念に沿った介護が実践できるようにしている	運営者や職員の意見を集約して地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作り上げている。理念を玄関やホール等に掲示し、ミーティング時やケア時に確認しあい、利用者の支援に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所自ら町内会に加入し、地域の活動にも積極的に参加、協力を行なっている。また他施設と音楽交流会や合同研修会なども定期的に行なっている	町内会に加入し、地区行事の花見会・夏祭りなどに参加している。小中学生の体験学習や住民のボランティア訪問等の受入れをしている。また介護相談窓口として住民の相談に対応したり、認知症サポーター養成講座の講師を努めるなど交流と貢献に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	家族には入居時や家族会時に認知症に対する理解をしていただいている。大隅地区認知症セミナーなどを通じて地域の方に認知症に対する理解や協力を求めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で自己評価や外部評価の報告や地域と合同の消防訓練など、委員（行政、家族）に意見をいただき、職員にも職員会議などで検討を行なう機会を設けサービス向上に取り組んでいる	行政や住民代表・家族等の参加を得て定期的に開催している。ホーム便りの配布先の検討や利用者の外出時の対応など、貴重な意見が出され、サービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	大隅地区グループホーム協議会の事務局を行なっているため、頻回に県や市町村との意見交換を行なっている。また認知症サポーター養成講座に協力し連携を図っている。	運営者は地区のグループホーム協議会の事務局のため、行政担当者との連携は密である。利用者の暮らしぶり等を報告し助言をもらい、共にサービスの質向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在身体拘束の必要な利用者はいないが、身体拘束について日々のミーティングや職場内研修会を行うなどして「身体拘束をしないケアの実践」に取り組んでいる。家族にも入居時に説明を行い協力と理解をいただいている	ミーティングや研修会時に事例検討を行い身体拘束廃止の確認を行っている。居室や玄関に施錠はなく、職員間で見守りを徹底し、本人のペースに合わせた支援に努め拘束のない支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内で学習を行い、管理者が朝のミーティング時など説明を行なっている。新しい職員にはオリエンテーション時に正しく学んでもらっている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	開設当時から市社会福祉協議会の地域福祉権利擁護事業を活用している。家族にも制度の説明、助言を行なっている。職員は職場外研修で権利擁護を学ぶ機会があり正しい知識のもと利用者の支援ができるように心がけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時の契約締結時には契約書をもとに、十分時間をかけ説明を行ない、同意後家族にも1部保有していただいている。家族会を年2回実施し契約に関することや施設の課題なども含め意見交換や説明を実施している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、不満や苦情などについては、入居時の説明や玄関に掲示、意見箱も設けている。また家族会を年2回行い意見や要望を伺う機会を設けている。個別には定期的な面談の際に気軽に述べられるような機会を設けている。外部者への意見相談先の説明、掲示も行なっている	家族からの意見や要望は来訪時や電話等で聞き、利用者や家族の立場にたった支援を行い、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月職員会議を開き、一人ひとりの意見や提案を聞いている。また業務中でも随時意見を聞き運営に反映させている。業務中ではなかなか意見が言い出せない職員もいるので、面談や業務外の食事会など交流の場を持ち意見を出しやすい雰囲気作りに努めている。	運営者はケア会議や食事会などで常に職員と話し合う場を設けて、意見やアイディアを聞いている。頻繁なナースコール対策や転倒防止柵の設置・レクリエーション・掲示方法など、ケアに関する大切な決定に職員の意見が活かさ反映されている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職場外研修の参加としては、県や地域のグループホームの研修に一人年1回以上の参加実績があり、研修内容も書面にて報告することになっている。また、職場内研修は、2ヶ月に1度外部講師を招いての研修を行ない専門性が高められる取り組みになっている。専門誌の貸し出しもあり、職員自ら学習する意欲も引き出せているように思う。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県や地域のグループホーム協議会に加入し、協議会主催の研修会を通して他施設との交流する機会があり、演芸出演の目的で訪問に出かけたり、他施設に学習の呼掛け合同で学習会を行うなど交流を行なっている。県認知症介護の実習施設として毎年10名以上受け入れ、その他ヘルパーの実習受け入れも行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>相談から利用に至るまでは、利用者や家族と話し合いを行い、思いや意向、要望など話しをよく聞くようにしている。入居されてからは、全職員が利用者が快く話せる環境を大切にし、一日でも早く信頼関係が築けるように努力している。利用者の相談事は話をよく聴き不安に感じない様にしていく。場合によっては家族に伝え家族と協力しながら取り組んでいる</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>相談を受けたときは、利用者や家族に、思いや意向、要望等を聴き、困りごとがある場合は、困りごとの原因を確認し家族が安心できるように助言している。入居後も家族の思いや困りごとに耳を傾け、少しでも家族の意向に沿った対応が出来安心していただけるように努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談内容によってはどのようなサービスが必要、可能かを確認し介護保険やそれ以外のサービスも含め助言している。現在は社協に金銭管理のサービス（地域権利擁護事業）を利用されて満足されているかたもいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>介護する・されるの関係ではなく、一緒に暮らす家族のような感覚で接している。常に介護される側の立場で「家に帰りたい」と言う利用者の言動に隠された内面世界や心理面を理解し、本人の思いに添えるように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>入居の時点で、施設だけでは利用者を支えるのではなく、家族と協力してグループホームでの生活を支える必要性を説明し、家族との協力関係が欠かせないことを理解していただいている。花見、敬老会、診察など家族会やホーム便りで、必要に応じて参加協力を呼びかけ、共に支える関係づくりの構築に心がけている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>行きつけのスーパーやお寿司屋、理容室などに月1~2回行く機会を関係継続の支援を行なっている。知人に会う機会がない場合は電話で話すなど馴染みの人との支援が出来ている。ただ施設のみだけでは全ての要望はかなえられない現状もある。要望を伝えられない人もいるので、これまでの生活をもとになじみの関係が途切れないように支援していきたい</p>	<p>精神面の安定性を図るため、ケアプランに詳細に記録して、友人・知人・身内の面会の頻度を促している。自宅訪問や墓参り・外泊・スーパーマーケットへの買い物・外食など、馴染みの交流が図れるようにしている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入所者同士が一緒にリビングでテレビを見たり、食事の準備や洗濯など関わり合いやすくなるように職員が心がけている。また利用者同士が居室やローカのフォファアで談話できる場がある。中には苦手な利用者同士もいらっしゃるので座る位置を工夫し利用者同士の関係性が保てるように配慮している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院か他施設に移るという状況で契約終了するが、身近に身寄りのない利用者もおられ、入院先に洗濯物の援助やカンファレンスに関わるなどして、退院まで支援したケースもある。また、他施設に移った利用者の様子を見に行ったり、退居されたご家族の方より感謝の手紙が届いたりしている。今後もこれまでと同様に、利用者や家族との関係性を大切にす方針である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向やしたいことなど、入居前に希望をよく聴いている。特に買い物や食事、入浴、診察など把握するように心がけている。本人が表現できない場合は、家族にこれまでの生活を聞いたり、また、行動やしぐさなどから思いや意向を探るようにしている。	表情や言動・会話を通じて、思いや意向の把握を行っている。困難な場合は、言葉をわかりやすい表現にしたり、家族からの聞き取りなどを行い、一人ひとりの思いや意向の把握に努め、本人本位に支援するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方などの情報は、入居前に本人、家事族にアセスメントを行なっている。また、ケアマネージャーや病院の相談員などの関係者にも、情報収集を行い、グループホームでもこれまでの生活の継続を大切に精神的なダメージがおこらないよう十分配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ることと出来ないことを見極め、できると思われることは何か、出来ないことでも、どのようなケアを行えば、少しでも自分の力で出来るようになるか、自発的にかかわりの少ない利用者に対しての関わり方など日々スタッフ同士で検討し、その人らしく生活が出来るように努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居されるときは、本人、家族、ケアマネ、相談員などの関係者と担当者会を行い、入居後は家族や管理者、職員と本人の意向や状態（ADLや認知症の状態など）をふまえて担当者会や面談を定期的に行い、利用者本位の介護計画になるようにしている。また、主任が中心となって、利用者に対する話し合いが日常でも見られるようになってる。</p>	<p>本人や家族・職員と定期的にカンファレンスを行い利用者主体の暮らしを反映できるように介護計画を作成している。モニタリングして現状をふまえた介護計画を作成している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>職員間の情報についても、確認後のチェック体制を整え、実践に活かせてきている。個別の経過記録の必要性を理解している。客観的に誰が見ても分かるような記録を目指し努力している。経過記録、医療記録は他のスタッフの記録も見ること、ケアに活かせるように指導している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入院などで空床があった場合は、短期入所できるように、申請してある。訪問看護ステーション、主治医の往診などで、健康管理に努め、健康維持が出来るようにしている。病院受診の送迎については、家族と連携し、柔軟な対応ができるようにしているが利用者の病状によって、受診先や回数が重なり家族の理解や協力が無いと、柔軟な支援にも限界を感じる。入居前や家族会、運営推進会議で状況の説明を行い理解してもらっているが、協力まで繋がらない家族もいらっしゃる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議や防災訓練、地域の学校の運動会などの地域行事への参加協力を積極的にしている。ボランティアは、小中学生を授業の一環で毎年の受け入れ、また地域で踊りのボランティア活動されている方も受け入れている。しかし趣味や活動に対しての幅広いボランティアの必要性が感じられる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人と家族に意向を踏まえながら、かかりつけ医の定期的な受診、往診を行なっている。受診の際、かかりつけ医に日頃の状態が正確に伝わり、連携が図れるようにしている。また、訪問看護ステーションと医療連携の契約をしているので、相談、助言を受け適切な医療が受けられるようになっている。</p>	<p>本人や家族等の希望するかかりつけ医の受診を職員が同行して支援している。医療連携体制がとられ、看護ステーションからの応診の継続支援があり、適切な医療支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常の健康管理については、日頃より看護師の職員より観察のアドバイスをうけ、かかりつけ医の受診の際に連携が取れやすくしている。利用者の健康面についての適切な管理や相談は訪問看護ステーションの毎週の訪問時にアドバイス、指示をもらっている。訪問看護ステーションとの契約も1年半となり職員同士も信頼関係ができ、小さなことでも相談できるようになっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された場合は、認知症状やグループホームでの生活様子など情報提供を行い医療機関での生活が混乱しないよう連携に努めている。また早期退院に向けて病院の主治医や医療ソーシャルワーカーと密に連携しながら調整を行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制による重度化した際の指針を示して、職員へは職員会議で、家族には入居の際、あるいは家族会で説明し重度化や終末期への対応の説明を行っている。実際に終末期の利用者の、話し合いを家族や主治医、施設で何度も行なったケースもあり、これからも終末期については看護師やかかりつけ医と連携しながら、利用者や家族の望むことを指針に基づき最後まで支援できるようにしていきたい。しかしグループホームでの医療行為などの制限などの困難面もあるので利用者にあった方法を探りながら対応したい。</p>	<p>医療連携体制による重度化や終末期の指針を、入居時に家族に十分説明している。看取りについては、ホームでできる方針が定められ、家族に同意を得ている。重度化や看取りについての実績がある。家族や主治医・看護師等でその都度話し合いを行い、方針を共有している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>火災については、マニュアルに基づき週2回の消防訓練や毎年消防署・地域の消防団とも合同で訓練を行なっていると同時に、地域住民へ呼掛けを行い住民参加の消防訓練も行った。職員の8割～9割が普通救命・上級救命講習を受講し、救急救命大会にも出場している。今後もしばいという時のために事後防止の学習会も継続して行なっていく。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間想定防災訓練を週2回・消防署や地域の消防団・地域の住民の協力での夜間想定訓練を、年2回行ない、非常食についても水や乾麺などの確保を行なっている。地震災害のマニュアルも作成し自主訓練を行なっている。</p>	<p>消防署や地域消防団の協力のもと災害訓練や昼夜間想定避難訓練を地域住民参加の協力を得て行っている。また地震災害のマニュアルを作成して自主訓練も行っている。通報設備・非常用電気設備・火災報知器・連絡網を設置している。備蓄も完備し、事故防止に努めている。</p>	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の症状により言動が不自然でも一人の人として言動の意図を理解し、人格を傷つけることのないように配慮している。排泄・入浴介助など他の利用者の目に触れないようプライバシーに配慮している。声かけも朝のミーティングや勉強会で個々に合わせたコミュニケーションのとり方を指導、教育している。特に新しいスタッフについては、主任がオリエンテーション行うなど指導体制をとっている。	一人ひとりの意向を把握し、人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。しぐさや表情から把握している。職員の意識向上を図るため尊厳に対するケアのあり方を勉強会や日々の支援の中で課題にして研鑽している。職員採用時に誓約書を取るなど、個々のプライバシーに関する取り扱いや管理など指導体制が充実している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や洗濯、入浴など見当識にアプローチできるように分かりやすく説明を行ない、自己決定できるようにかかわりを持ち、意味が分かりにくい利用者に対しては、場所に連れて行く、品物を見せるなど工夫している。決して利用者の意に沿わないことは、無理強いせず、時間を置き対応するなどその人に合わせた生活リズムで暮らせるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>例えば、朝の苦手な方や夜に休めなかった利用者など一人ひとり違うので、その日の体調や気分に合わせて起床・食事・入浴などできるように心がけているが時々、職員のペースで声かけしていることがあるので、利用者一人ひとりのペースを大切にしていきたい。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>身だしなみに関心が薄れた利用者にも、毎日整髪や更衣などの声かけをし、その人らしい身なりになるように心がけている。爪切りや耳そうじ・顔そりなども定期的に行い身だしなみを整えている。身体的に美容室に行けなかったりされる利用者には、地域の美容院から訪問カットに来てくださるようになっている。自宅に居る頃に化粧をされていた利用者には外出時など化粧の声かけを行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>もやしの根切りやフライなど利用者の力に合わせて実行機能にアプローチできるような支援を行なっている。また、庭の菜園に旬の野菜を植え、収穫し、旬の野菜を見て触れることで季節感や食欲が増すように工夫している。ただ、料理が苦手な利用者もいるので、そのような場合は食材運びや片付けをしてもらっている。</p>	<p>利用者の機能にあわせながら、庭の菜園で収穫した野菜などを活用して下ごしらえや後片付け等、役割を持って共にするよろこびを体感している。また食事形態や食事時間などを配慮しながら、職員と一緒に食事を楽しんでいる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食べる量は主食と副食に分けて毎食記録し、食事のメニューもバランスよく摂取できるように献立と使用した食材の記録を行なっている。水分量は必要に応じて計測、記録しているが水分摂取の少ない利用者や季節、体調を考え食事・お茶以外にも水分の声かけを行なっている。個々の好みや病状などを考慮して楽しく食事ができるように心がけている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の歯磨きは不十分であるが、朝食前と夕食後は声かけ、介助し洗浄剤につけるなど徹底している。ただ、歯磨きの習慣を忘れて利用利用者もおられ強制的にできないので全員の清潔保持が難しい。歯科の往診も行い専門的な口腔状態のチェックを行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄を失敗される利用者の場合、何が原因か（場所が分からない・間に合わないなど）探りながら安心してトイレで排泄できるように支援している。（行動パターンの確認や声かけの方法など） 工夫の結果、リハビリパンツから布パンツに移行された利用者もいらっしゃる現状である。オムツに頼らないトイレでの排泄に心がけているが、気づかないうちに失敗されている場合もあり、そのような場合は羞恥心・プライドに配慮し清潔に更衣できるように心地よい排泄の支援を今後も続けていく。	排泄チェック表により、パターンに応じた個別支援をしている。利用者の失禁について原因を調べ、できるだけトイレで排泄できるように支援している。オムツ使用から布パンツ使用に改善され、本人や家族等に喜ばれている事例もある。ケアの工夫をすることにより、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々排便状態を確認し、記録に残している。栄養士を呼んで食に関する研修を行ったり、毎日の体操や運動など、なるべく薬に頼らないように心がけているが、困難な利用者に関しては主治医に相談、指示を受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>入浴は2ユニットで入浴する曜日をずらして、いつでも入浴出来るように工夫している。利用者の安全を重視し、夜間帯は職員が1名の職員体制のため、夜間の対応は出来ていない。原則として入浴は17時までとなっているが、入浴剤やバラの花風呂、ゆず・菖蒲湯など季節感を味わえ、楽しい入浴になるようにしている</p>	<p>ユニット毎に入浴日を決めているが、本人の希望や身体状況に合わせて毎日でも入浴支援を行っている。バラの花を浮かべたり菖蒲湯など四季折々の入浴を楽しんだり、近くの温泉に日帰りで出かけたりしている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>朝の苦手な人、昼寝の習慣がある人、寝つきが悪いときにお酒を少し飲むと休める人など、これまでの生活習慣を把握し、利用者の生活リズムに合わせた支援ができるように心がけている。中には寒がりや暑がりの人もいるので冷暖房や電気毛布などで、室温を調整し安眠できるように配慮していきたい。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬と薬剤情報は、個々の台帳に綴じ、職員が服薬の把握ができるようにしている。服薬の変更や臨時の薬があった場合は、申し送りノートや薬入れに記入し確認漏れのないように職員がサインするようにしている。薬の効能や副作用については、施設内研修に外部講師として薬剤師を招き学習している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食事の下ごしらえや洗濯物干し、買い物など利用者の一人ひとりの能力に合わせ出来ることできるようにして、喜びやいきがいを感ぜられるように関わっている。中には性格的に遠慮深いひとや、家事に興味を示さない人など様々であるが、裁縫や買物など日々の生活の中に役割や生きがいを感ぜられるように工夫している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>毎日、天候に合わせて隣の公園で散歩やグランドゴルフなど外出の機会をつくり、季節の移り変わりや地域の人との交流が出来るようにしている。その他、買物や外食、墓参りなどの機会も作り地域の中で暮らしていることを感ぜられるようにしている。</p>	<p>天気のいい日は隣の公園での散歩やグランドゴルフなどをして、地域住民と親しく交流を行っている。また買い物や花見・墓参り・地域の行事に参加するなど、外出の機会を年間行事計画に組み込み、家族の協力も得て、毎月外出支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>職員にお金を持っていないことへの不安を理解してもらい、利用者が安心できる範囲でのお金を所持できるようにしている。また、所持していなくても利用者に対しては買物の際渡し、使えるようにしている。中には家族の希望でお金を所持していない方もいるが、事務所で預っていますなどの安心できる言葉をかけ、自分の買いたいものが買える様にしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話は目につきやすい場所に置いてあり、家族や知人などいつでも電話で話せるようにしている。電話使用の声かけが不十分なのか使う利用者は限られている。手紙も日常的に書いている利用者は限られている状態だが暑中見舞いや年賀状は限られた時期であり日常的な支援が十分行えていない。</p>		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の居室は南側を中心に東・西側にある。日差しの強さによっては、カーテンやよしずで調整できるように配慮してある。トイレや居室は表示を貼り分りやすくしている。居間や廊下にソファを置き利用者同士がいつでもくつろげるような空間にしてある。</p>	<p>採光や換気・温湿度・音に配慮が行き届いている。衛生管理表があり清潔である。随所にくつろげるスペースのソファが置いてある。行事毎の掲載物、馴染みの三味線や大正琴・ちぎり絵・春のひな人形の工作・季節の花が飾ってあり、家具の配置なども工夫が行き届き居心地のよい共用空間づくりとなっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングやローカなどのスペースを活用し、ソファを置き利用者同士で談話したり、又は一人で気兼ねなく、くつろいだりテレビを見たりできるようになっている。仲のよい利用者同士が居室で談話する場面もみられるようになっている。</p>	/	/

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>使い慣れたものを持ち込んでいただきこれまでの生活環境を保ち居心地よく過ごせるように配慮している。また、生活に必要なテレビなど持込み好きな番組を楽しめるよう利用者の状況に合わせて心地よく過ごせる居室の空間に配慮している。</p>	<p>テレビや冷蔵庫・時計・毛布・枕・位牌・家族写真・工作物の掲示・洋服掛など、お気に入りや馴染みの物が持ち込まれている。温度計が各居室に設けられ、居室入り口にわかりやすい表示が工夫されてそれぞれ個性的な居心地の良い居室作りとなっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>室内は手すりを取り付けてあり、床も段差がなくバリアフリーになっている。リビングやトイレなどの生活空間は歩行器や、車椅子が使用できるスペースも確保され、自立した生活ができる環境になっている。また歩行の不安定な方には、歩行能力に合わせて自助具使用のアドバイスや、居室やトイレの場所が分かりやすい表示を工夫している。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない